

## I. コリジョンスポーツ【ラグビー】における 神経根障害の手術適応と復帰

坂根 正孝

筑波大学医学医療系整形外科

ラグビー、アメリカンフットボール等コリジョン競技中におこる一過性の頸部痛、上肢筋力低下、感覚障害は、バーナー、ステインガーと呼ばれており、一般に良性の病態と考えられている。

タックルやスクラムの際に頸椎の側屈や伸展強制損傷で、腕神経叢のストレッチ、椎間孔における神経根インピンジメント、直達外力によって生じるといわれている。若年者では伸張型の損傷が多く、大学レベル以上の選手には圧迫型が多く、また C5-6 領域（腕神経叢の上幹）に多いとされている。症状は、通常数分から数時間以内に筋力低下やしびれは軽快するが、競技継続には筋力低下がないことが必須である。頻回に起こす選手、重症化、回復の遷延が認められるときは、頸椎症の合併等もあり精査が必要である。

経験の長いラグビーフォワード選手では、椎間板ヘルニアによる神経根障害の他に、頸椎椎間関節の狭小化や骨棘の形成などの関節症性変化により神経根障害を来すことがある。C6, C7 障害が最も多く、診断には CT が有用である。頑固な頸部痛、肩甲内側部痛、大胸筋・上腕三頭筋の筋力低下、パフォーマンス低下のために手術適応（椎間孔拡大術）となることがある。筋力の回復には時間がかかるが、疼痛軽減効果は高く、4～6 ヶ月で元の競技レベルに復帰可能である。